

# 平成12年度 当初予算

## 高まる国などへの依存、 厳しい中で着実に進むまちづくり

平成十二年度の予算を、財政指標や年ごとの数字の推移で見ると、税収減や市債の返済の増加などで、ますます厳しさが増しているのが分かります。厳しい財政状況の中、市民のみなさんの要望に即した堅実なまちづくりを進めていきます。

### 歳入の現状

#### 自主財源比率は68・5％ 3割以上を市債や国、県に依存

市税収入の落ち込みにより（グラフ）、自ら確保できる収入がどれだけかを示す自主財源比率（市税や使用料・手数料など、国や県に依存しない財源の、歳入に占める割合）は、六八・五％で、前年度を三・四ポイント下回り、さらに厳しい台所事情になっています。このため、財源の三割以上を市債や国、県に依

### 借入れと返済

#### だんだん重くなる返済の負担

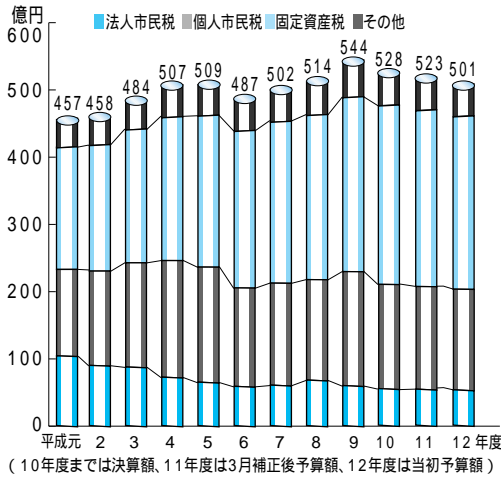
市税など使い道が特定されていない収入が、市債の返済（公債費）にどれだけ使われたかを示す公債費負担比率は、通常一五％が警戒ラインとされています。本市は、平成十年度で一四・九％、平成十一年度では一五・三％となる見込みで（グラフ）、これまでの返済が重い負担になっています。

### 投資的経費

#### 渋滞・耐震対策などを重点的に

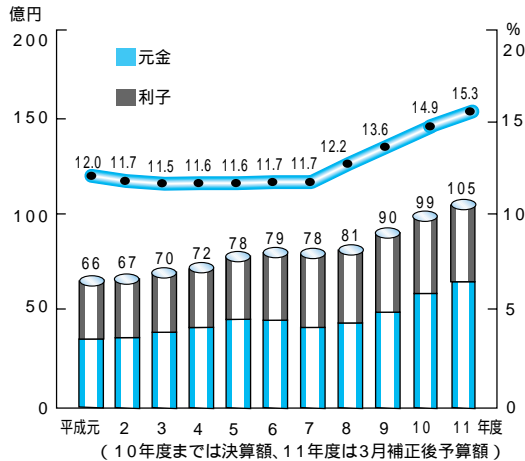
投資的経費には、国からの補助による事業と単独事業があります。本年度予算では、補助事業は北部清掃工場整備事業の減少などで二〇・四％減となる一方、単独事業は道路、街路事業などの増加で一五・四％増となり、投資的経費全体では前年度比〇・一％増（グラフ）。苦しい財政状況の中で、大型の事業はなくても、市民のみなさんの要望やこれからのまちづくりに必要な事業を重点的に展開していきます。

市税収入の推移(グラフ)



存せざるを得ず、財源不足の自治体に国から交付される普通交付税を、前年度に引き続き受けることと見込まれることから、本年度は三十二億三千万円の普通交付税を計上しました。

公債費と公債費負担比率の推移(普通会計)(グラフ)



投資的経費の推移(グラフ)

